

一言で本談対

みなさん、こんにちは、こんばんは。またはおはようございます。また天地成行です。特集は、第四号からの久しぶりの登場・大橋広宣さん。二面にわたり晩秋に出る共著の寄稿をいただきました。大橋さんの寄稿を聞こう。そして、秋の良さ気候に久々の奇行をしようか？ ああ、気孔をつかれた！。それは「秘孔」。(笑)

共著『精神疾患の元新聞記者と発達障害の元新聞記者がお互い取材してみた。』11月23日出版

大橋広宣さん



「みんつど」読者の皆様、こんにちは。

大橋広宣と申します。

「マニイ大橋」の名前で、映画のコメントーターとしてテレビ・ラジオに出

て喋ったりしているほか、ぼちぼちとライター業や映画製作にも関わったり

しちゃっています。ま、基本は映画好きのオタク

な愉快なおじさんです(笑)。

実は発達障害のADHD(注意欠如多動症)と

SLD(限局性学習症)を持っていて、これまで

それなりに苦労もしているのですが、元新聞記者でもあります。

天地さんとは4年ほど前に知り合いました。

元記者同士で、映画や本など、好きなものの傾向が似ていることもあつ

て、つかず離れず、親密になつたり疎遠になつた

りしながらも、何となくほのかでいながら、それ

なりに「深い」ディープ

そんな天地さんと僕とで、何と！ 共著『精神疾患の元新聞記者と発達障害の元新聞記者がお互

い取材してみた。』を11月23日に出版社の

ロゼッタストーンさんから商業出版することになりました！

表紙イラストは人気イラストレーターのにしか

わたくさん、帯の文章は何と！ 現在放送中の朝

ドラ「ブギウギ」作者で日本アカデミー賞5冠の

た！(冗談です笑) きっかけは、僕があち

こちで講演しているのに、その内容が書かれた本も

出していないため、心配してくれた天地さんが「対

談本でも出して大橋さんのことをまとめましょう」と言ってくれたこと

でした。 ですが、対談していくうちに、僕は天地さんのお話……例えば、統合失調症の「聞こえる」「見

える」は当事者にとって

は本当に「聞こえる」「見える」こと。

気分障害の

「そう」状態になると、自分をコントロールできないこと……そんな経験を、ユーモアを交えてお

話しながら、今も「トネルの中にいる」と感じ

つつ、ぼちぼちと「できること」として「みんつど」発行を続けている天

地さんこそ、もっと世に出るべき、と思つたので

す。

(二面に続く)

「生かすは死かす」抱える人に励まし

な(笑)友情を紡いできました。

もちろん「みんつど」

読者であり、以前、光栄

にもがつつりと大特集

を組んでいただいたこ

ともありません。

名作映画「百円の恋」の脚本でも知られる脚本家・作家・映画監督の足立紳さんが書いてくれていま

す！ 「何と云うことでしょうか！」

という「大改造！！劇的

ピフオーアフター」のナレーション(声はサザエ

さんの加藤みどりさん)が聞こえてきそうな奇跡的な出来事が、多分に僕の力によって実現しまし



KビジョンとCCSで現在放送中の「インクルしようよ」。司会の大橋広宣さん(左)と天地成行(番組の一場面/和田山企画提供)

本は、周南市八代・ナベツルの里の出版社「ロゼッタストーン」から出ます

(一面から続く)

それから約3年かかってようやくまとめて、いざ出版しようと思ってもそんなに簡単ではないですし、自費出版や半分自費、半分出版社持ちのような企画ならありはしますが、僕らはお金も無いし(笑)、さあどうしようか、という感じでした。

ですが、ひよんなことから知り合ったロゼッタストーンの社長さんに初稿を見せたら「これは面白い!」と言われ、「僕らは1円も出せません」と言うと、最初は簡単な装丁で100部ほど、という話だったのが、「面白いし需要もあるはず」という社長さんの判断で、初版1500部で商業出版されることになったのです。

本当にありがたいことですが、にしかわたくさんのイラストは社長さんのご依頼で、足立さんの帯は僕が映画づくりを通して足立さんと親しいことから、「今話題の足立さんに帯を書いてほしい! 大橋さん頼んで!」と言われ、ビクビクしながらお願いしました。

足立さんは朝ドラ執筆でお忙しいのに、わざわざ原稿を読んでもらって「内容が赤裸々なのに笑えるし、とても面白い」と言っていたので、喜んで帯の文章を書いていただきました。

社長さん、にしかわさん、足立さん、皆さんが共通して仰っていたいただいたのは「面白い」でした。当事者の体験談を一線で活躍されている編集者や脚本家・作家、クリエイターの方々がそう言ってくれださると、私たちのこれまでの人生も少しは報われたのかな、と思います。(注: 天地は解説を新潟医療福祉大学院の横山豊治教授に依頼!)

本を読んでもらいたいたらわかると思いますが、天地さんも僕も、自らの障害特性ゆえに、なかなかのしんどい人生を歩んできましたが、コツコツやっていたら、いいことはあるものだな、というのが今回の出版を通しての実感です。

今は、その特性故に、商業出版が決まって、天にも昇りそうな、いや、すでに昇っていて(笑)、もうこの本がベストセラーになっ

たあとの生活に想いを馳せている天地さんを「まあまあ。そんなに甘くないから」と僕は諷めながらも(笑)、これまでつらい想いをしてきた天地さんには、ひとときの地から天に上る想いはして当然だよなあ(「天地」だけに笑)、と思う今日この頃です。

と同時に、天地さんが自分の「しんどい部分」を受けながら、自分が「できること」を続けてきたからこそ、今回の出版であり、これは今、様々な「生きつらさ」を抱えている方々にも励ましとなる、と思っています。

本では、精神疾患のこと、発達障害のこと、僕らの生い立ち、特性故に苦労したこと、良かったこと、家族との関わりなどなど、当事者の方はもちろん、ご家族の方やそれ以外の方にも笑って泣ける、大エンターテインメントな内容になっています!

ぜひご一読ください!
(対談本寄稿の第二弾は、ロゼッタストーンの中野合子社長を予定しております。追加情報予定)

小説・地球を救ったオオクニニッポロ結

ナリノカミは、天地成りに戻って、「シュー」と地球の日本の出雲国に降り立った。

ここはコロナ禍前の2019年11月末。島根県松江市。全国の神様がここ出雲に集まり会議と称した縁結びと盛大な飲み会を行っている。主会場はもちろん出雲大社である。出雲では、神在月という。

全国各地ではこの時期、「勘定はつけておいてよ神の留守」といった具合に、無銭飲食が横行し、ニュースとなっているらしい。

温泉街の「湯屋だんだんね」の前にスーツ姿で降り立った天地成行。片手に一冊の本を携えている。「母をたずねて三千里」。

「いや、本当は何兆里でしょうか」とひとりごちた成行であったが、この湯屋にとりあえず入る。ここは実は天界では使え

ない宿である。というのでも、天界はアマテラスのヤマト系なので、いろいろすったもんだした出雲国では顔が利きにくい。

現在でも天皇は出雲大社の本殿には入れない。この国は見えざるものを支配する出雲の神「オオクニヌシ」やその上の代の「スサノオ」により固く守られている。また「えびす」神の総本宮も美保関にある。縁結びから金運、さまざまな運をここで作り上げている。

話は戻るが、この湯屋に成行が顔パスなのは、松江市にある「神話大学」在籍中に話は戻る。入学式の時に会場までバスで向かう際に、路線を間違えてしまう。その時に助けてくれたのが客として同乗していた、この湯屋の女将の、くららさんだった。

くららさんは、バス車内で運転手に「県民会館にいかないんですかあ？

まいったー」といって

いるところを、「わたしが連れて行きましょう。とりあえずわたしが降りるところまで一緒にいきましよう。それから車で向かいましよう」と助けしてくれた。その時からのご縁である。

成行は、それ以後、学生時代からこの湯屋に通い、知的障害を持つ、くららさんの御息・よしくんの手をするアルバイトをして、ついでに湯に浸かって帰った。という経緯があるため、天界の他にはない縁の力でこの湯屋は顔が利く。故にこの湯屋に降り立っているわけ。さつそく入る。

「あら、成さん久しぶり」出迎える若女将が話しかけてきた。「くららさんなら、休まれてますよ。よしくんもいますよ」

「どうかしましたか？」「帯状疱疹にかかってしまったから……」

「それはやはり呼ばれたな」

「？ なに」
「いや、くららさんに挨拶してくるよ」

くららさんの女将部屋にはいるとだるそうに寝ていた。よしくんがみつめていたが、わたしをみつめて抱き着いてきた。「だー」。よしくんも大きくなった。くららさんも大変だろうなと成行は思った。

「成行君、大変よ！ あたたた」くららさんはいきなり叫んだ。
「わたしは出雲国縁結び族の末裔なのよ。いまのあなたは昔と違って、われらの救世主に見える、輝いているわ」

「どしたのくららさん？ そんなこと今まで知らなかった」
「あのね、来年から地球は大変なことになるのよ。いよいよ、アマテラス系の人間には理解の及ばない「見えない」ものと向き合っその恐怖におびえなければならぬ時代に入りますのよ。成行君ならわかるわよね？ そ

れであなたは今何をしてるの？ 仕事は？」
「数年前に精神疾患にかかって辞めて、今はなぜか400年天界でアマテラス様にお仕えしております。名前をナリノカミといいます。今回は、アマテラス様が地球を心配なさって『みておいで』と休暇をくれました」

「ああ、やはりあなたはわれわれを救いにきたのね！」くららさんの頬をつたう涙。予定にない話になってきた。

天地成行は実はこの時までに植物状態になって、周防国の病院で余生を送っていたからだ。往年の三人組芸人のギャグのように「聞いてないよ」というわけである。そこから、くららさんは同族のお偉いさんの一郎さんという方に連絡して、オオクニヌシさまに連絡することになった。

電話越しにオオクニヌシさまは、掴みの話としてなごませるために話し始める。

いま大社詰めを退社している。なんでも、て

んぶらそばを食べに出かけた時に、地元なのに地元産ならず、国産が「水」と「はし」だけだったことに立腹されたらしい。

大好物の「おはぎ」などもってのほかの食料事情に「農業神」として、お布施を出資金にして、原料のそばから薬味、さらにはこじんまりとしてはいるが、店のすべての材料を出産や国産で作りに上げたそう。

オオクニヌシさまはこの2020年から始まる日本の、世界の、地球の危機のために、このそば屋を経営する名目で今おりたってきたというわけである。

そしてうおっほーんと咳払いして本題に移られた。

「天地成行さん、あなたはアマテラス系の人生でいくと今この時は「らしく」生きられていない。わしが「見えざる力」で救ったのよ。お主が死ぬと、「天地が滅びる」地球がふつとぶ」というわけさ。しゃれみだだがね。わしはそう思っている。確かにあなたは無

茶苦茶な突っ走り方でこれまで生きてきた。そりや普通の人間の二十代で尽きてしまう生き方。でもわしがあなたを生かすと決めた。筋でいくとあながたが亡くなって、輪廻をする際に天界にリクルートされていると閻魔大王の記帳には残っており、そこでアマテラス系に入っ

たみたいだが、もともと神話大学に導かれたのも縁があつてのこと。周防国からこの出雲に来るのは、導かれていないと来られないのだ。覚えているか？ あなたはスサノオさまの祀る神社で彼女と来て、手水舎に足をかけ焼きイカをくわえて恰好をつけて写真を撮つた

だろうか？ あんなことが許されるほどに、あなたはこの出雲で輝き愛された。縁結びの伝道師なのだ。だからあなたは小学生時代から転校生を仲間の輪に積極的に入れたり、ボランティア部をボランティアしたり、英語サークルの劇のパンフレットに英会話学校から大金をつのれたり、江戸に出てもテキ屋さんからアルメ

ニア人から国会議員まで付き合つたではないか。テキ屋さんの家から国会議員部屋まで行くか？ 普通。さらに、日本赤字社の瓦版の手伝いまでしたり、会社でも調子よい時はアルバイトから社員までの全局有志飲み会をしたり……。あなたにはこれからは、愛のテキラスト活動でまだ天界に上らせない。アマテラスさんに言われてきたんだらうが、話をつけておく。わしが降臨したことはもう彼女には伝わっているだろう。遣いをだしたかな。アマテラスさんも

国譲りの時に、わしに見えざる世界の支配者を認めたからな。これはわしの特権事項である。でな。あなた、名前が天と地となりゆきだがん？ それは、つまり神代はじまりし、アメノミナカヌシさまにほかならん大層な名前。本当に名前負けもいところ。でも実はその名前、「当たり前」。

その名前で生まれたことに感謝なさい。生かしてあげよう。コロナ禍の世界のために生きなさい。

周防国の四人の恩人とうまくやんなさい」電話口でふおつふおと笑うオオクニヌシさまと現世では大山国夫社長はそうのたまつて電話を切つた。

◆ ◆ 「はーつくしよん。くしやん」 秋の朝にみた夢はなまら現実離れしてるなあと天地成行は思う。しかし、確かにと思うところも。 そういうわけで「みんな集おう」のミニコミ誌「みんなつど」を作り続けているのである？ (終劇)



金光光雄さん作

そらよ わたしとみんなつどよ

みんなつど35号

～大橋広宣さん寄稿と小説号

編集：天地成行

原稿、写真、イラストなど

tenchi2020@outlook.jp

(天地成行) までお願いします